

研究会大
研究工
RSC
R前

放射性灰を安全保管

PC製容器共同で開発

RSC研究会は前橋市公募型協同研究事業で、フレキヤストコンクリート製の放射性廃棄物保管容器を前橋工科大学と共同開発、引き続き大型保管ヤードの開発にも取り組んでいく。短期保管用のフレキシブルコンテナに収納された放射性焼却灰を安全に保管でき、処分場などへ運搬することが可能な製品で特許を出願中だ。

コンクリートを守ることが出来る。さらに、ウレタン樹脂ではひび割れに追従するため、防水効果も向上する。

なお、RSC研究会はカイエー共和コンクリート、カワナベ工業、サンユレック、太陽コンクリート工業、アサヒコンクリートが構成メンバー。

同製品は、壁厚150mmのコンクリート容器(蓋付き)で、さらに内側へエポキシ樹脂やウレタン樹脂を塗布することで、除染・防食・防水効果も引き出される優れもの。法令の約6倍もの年間表面線量率の廃棄物でも遮蔽する性能を備えて

いる。放射性焼却灰を入れることで、容器自体が放射性物質に汚染されてしまおうそれがあるが、容器内面に樹脂を塗布することで放射性物質が付着しても取り除きやすくなる。ふきとり評価試験ではエポキシ樹脂の場合で約95%の除染効果を発揮することが確認された。またエポキシ樹脂塗布により枯葉などから出る有機酸による腐食から